

公立・私立、幼稚園・保育所の
園長先生・担任の先生・保護者を対象とした

「保育に関する意識調査」

- 報告書 -

はじめに	2
調査概要	3
. 保護者が子どもを園に通わせる理由	6
. 保護者が園を選ぶ基準	10
. 保護者の保育に対する「期待」と「満足」	14
. 保育内容に関する保護者と保育者の認識の比較	18
. 保護者の園の保育に対する期待の要因	20
. 園の保育に対する評価（満足度・実践度）の要因	22
. 保育・教育についての意識	24
. 「科学する心を育てる」ーことばのイメージ	28
おわりに	31
質問票	巻末

はじめに

私ども、財団法人ソニー教育財団は、これまで40年以上に亘り、小・中学校における創造的・先駆的な教育の取り組みを支援して参りましたが、平成13年11月に、30年以上に亘り0歳～2歳児の家庭における親子の関わりに対する啓発活動を行ってきました財団法人幼児開発協会と統合いたしました。

この統合を契機として、その間にある「3歳児～5歳児」の集団の場における保育の重要性をあらためて認識し、平成14年6月に新たに「ソニー幼児教育支援プログラム」をスタートいたしました。

上記の幼児教育支援事業を今後継続的に進め、教育の場の枠を越えた、子ども達のためのよりよい保育内容を支援するためにも、園長先生や現場の先生方、および保護者の方々の、保育に関するお考えを把握しておくことが重要であると考え、昨年度、「保育に関する意識調査」を行いました。全国7大都市の公立・私立の幼稚園・保育所にご協力いただき、お忙しい中、270の園にご協力を賜り、有効サンプル数1955件を得ることができました。

大変遅くなりましたが、このたび、調査結果の集計・分析作業が終了し、報告書が完成いたしましたのでご連絡いたします。

ご協力いただきました方々に心から感謝いたしますとともに、皆さま方にもこの結果をお伝えし、保育の参考にしていただければと思います、調査結果の概要をお届けいたします。

また、今回の調査研究に関しましては、調査設計の段階から東京大学の秋田喜代美先生、千葉大学の中澤潤先生にご指導・ご協力をいただきました。また報告書の監修もお引き受けいただき、貴重なご意見をいただきました。この場を借りまして深くお礼を申し上げます。

調査概要

1. 調査の目的

幼児教育支援事業推進のための基礎データとして、公立・私立の幼稚園・保育所を対象に、保育者および保護者に対し保育内容や子どもの発達観に関する意識を調査し、それぞれの共通点・相違点を明らかにする。

2. 調査概要

調査期間： 平成14年 6月～10月

調査対象： 7大都市(札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡)を含む7都道府県の公立・私立幼稚園、保育所における以下の三者を対象とする。

- ・園長先生
- ・担任の先生(3歳～4歳児、5歳児のいずれか)
- ・保護者(3歳～4歳児、5歳児のいずれか)

調査方法： 郵送調査(各園の園長先生に協力を依頼。園単位での依頼および回収)

調査依頼園： 572園(ご協力頂いた園 270園)
各園に対し園長先生1部、担任の先生2部、保護者8部の計11部を依頼。

地域別構成： 7都道府県の園数の比率で協力園数を決定
<参照データ>
幼稚園 - 平成13年度 学校基本調査(平成13年5月1日現在)
保育所 - 平成12年度 厚生労働省 福祉行政報告例(平成13年3月1日現在)

有効サンプル数: 1955件

有効サンプル数の内訳:

【全体】

	園長先生	担任の先生	保護者	
北海道	26	51	208	
宮城	12	24	82	
東京	50	93	373	
愛知	26	50	207	
大阪	37	71	282	
広島	11	24	85	
福岡	23	46	174	
合計	185	359	1,411	総合計 1,955

	公立			私立		
	園長先生	担任の先生	保護者	園長先生	担任の先生	保護者
3-4歳児	/	44	150	/	40	169
5歳児	/	43(8)	170	/	50(12)	197
合計	47	87	320	46	91	366

	公立			私立		
	園長先生	担任の先生	保護者	園長先生	担任の先生	保護者
3-4歳児	/	47	138	/	48	153
5歳児	/	46	232	/	40(3)	202
合計	44	93	370	48	88	355

【幼稚園】

	公立			私立		
	園長先生	担任の先生	保護者	園長先生	担任の先生	保護者
北海道	5	10	40	8	16	64
宮城	6	12	45	3	6	21
東京	8	16	63	11	18	79
愛知	4	7	32	7	14	55
大阪	17	34	136	7	14	56
広島	4	8	30	3	6	24
福岡	3	6	24	7	14	56
合計	47	93	370	46	88	355

【保育所】

	公立			私立		
	園長先生	担任の先生	保護者	園長先生	担任の先生	保護者
北海道	7	13	56	6	12	48
宮城	2	4	8	1	2	8
東京	16	32	128	15	27	103
愛知	11	21	88	4	8	32
大阪	4	7	19	9	16	71
広島	1	4	7	3	6	24
福岡	3	6	14	10	20	80
合計	44	87	320	48	91	366

3. 調査内容

園長先生、担任の先生、保護者に共通の質問

保護者が子どもを園に通わせている理由について
(各項目のあてはまり度を5段階評価)

保護者が園を選ぶ基準について
(各項目のあてはまり度を5段階評価)

保護者が現在の園に対して期待している保育内容について
(各項目のあてはまり度を5段階評価)

現在の園における各保育内容の実践度と満足度
(各項目について園長先生・担任の先生は実践度、保護者は満足度を5段階評価)

子どもの保育や教育についての意識
(自身の各項目に対する同意度を5段階評価)

「科学する心を育てる」ということばのイメージ
(自由回答)

主な個別質問

【園長先生】

1. 保育年数
2. 保育に関するよく読む本や雑誌
3. 園の設立年数
4. 園児数
5. 先生および職員数
6. 地域の特徴や保護者の意識について(自由回答)
7. 自身の園における保育の特徴(自由回答)

【担任の先生】

1. 1クラスの数
2. 保育年数
3. 現在の勤務園での保育年数
4. 保育に関するよく読む本や雑誌
5. 勤務園における保育の特徴(自由回答)

【保護者】

1. 家族構成
2. 居住形態
3. 自身と配偶者の職業
4. 現在通っているおけいごと
5. 子どものために購読している雑誌や通信教育
6. 自身のよく読む雑誌

本報告書の内容と留意点

保育者と保護者および園の種類による共通点、相違点を探る目的に沿って共通設問を中心にまとめています。

また留意点として、今回の調査は調査主体の性格上、純粋な無作為抽出によってアンケートにご協力いただく園を選びお願いしたのではなく、各地域の園長会等によりご紹介頂いた園が中心となっています。従って園の規模や保育年数等の属性データの分布は全体の傾向を必ずしも反映するものではないため、それらのデータについては属性による回答の相違を確認するために利用しました。

上記のようなサンプリング上の制限があったものの、多くの方々にご協力をいただいたおかげで保育や幼児教育に関する意識について保育者と保護者、幼稚園・保育所を含む有益な情報を得ることができました。

保護者が子どもを園に通わせる理由

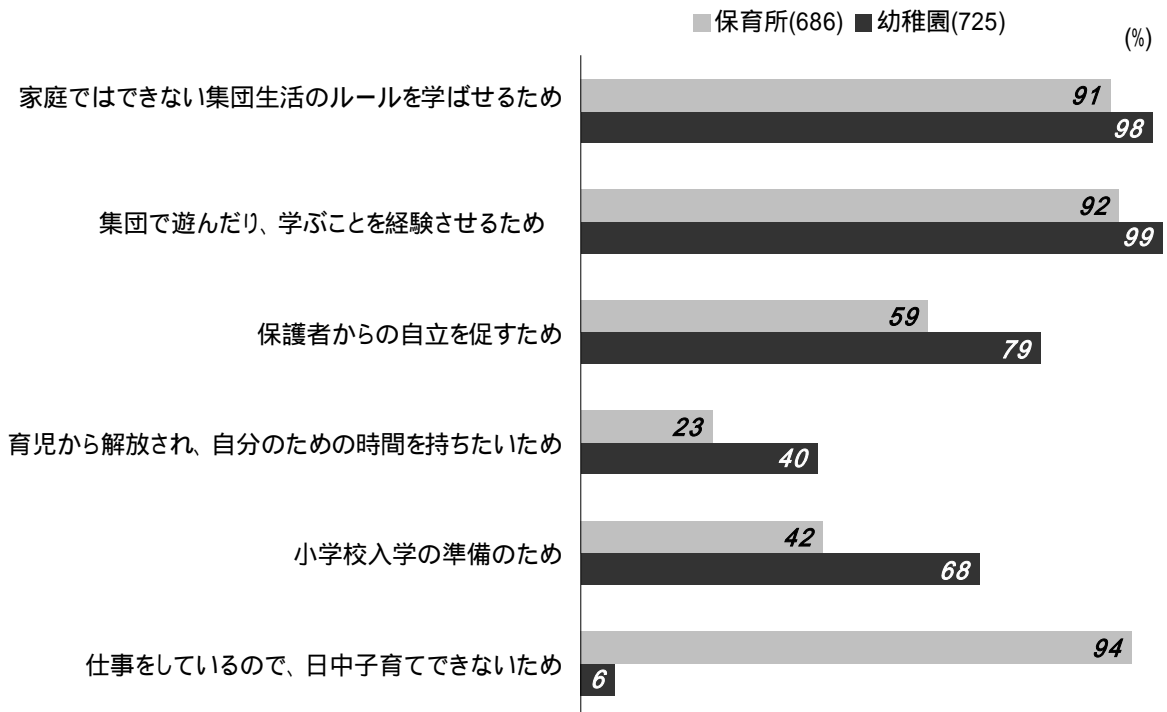
- 1 幼稚園・保育所の＜共通点＞

「集団生活を学ぶこと」が幼稚園・保育所の保護者に共通した大きな理由。

保護者は、幼稚園・保育所に共通して「家庭ではできない集団生活のルールを学ばせるため」、「集団で遊んだり、学ぶことを経験させるため」といった「集団生活を学ぶ」ことを通園の最大の理由としてあげています。

図 - 1は、それぞれの項目について「とてもあてはまる」、「ややあてはまる」いずれかに回答した保護者の割合を幼稚園・保育所で比較したものです。

図 - 1 保護者の理由 (項目順は質問票の順)



保護者が子どもを園に通わせる理由

- 2 幼稚園・保育所の＜相違点＞

幼稚園では、選択理由の幅が広い。

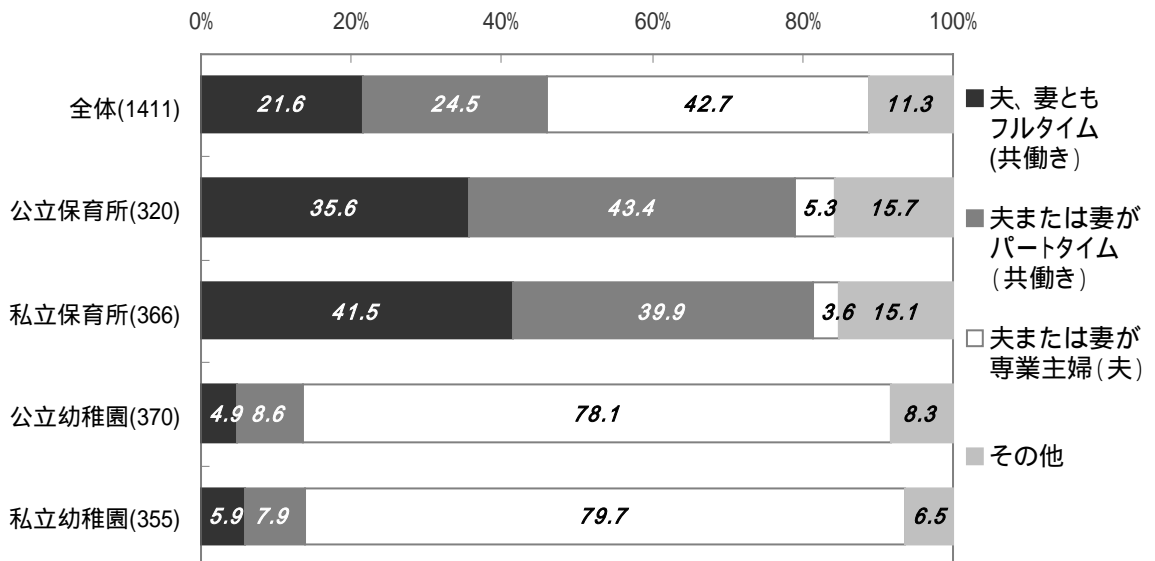
前頁のグラフから、幼稚園の保護者は「保護者からの自立」や「小学校入学準備のため」等も理由として多くあげており、保育所の保護者に比べて通園理由は幅広いものとなっています。
(前頁 図 - 1 参照)

保育所では、「仕事のために日中子育てできないため」が通園の最大の理由。

保育所の保護者では、「仕事をしているので、日中子育てできないため」が、子どもを通園させる最大の理由になっています。(前頁 図 - 1 参照)。

今回の調査では、幼稚園の保護者に占める共働き家庭の割合が14%前後であったのに対し、保育所の保護者では80%近くを占めました。保護者の就業状況は幼稚園・保育所の選択を左右する大きな要因となっています。(図 - 2 参照)

図 - 2 保護者の就業状況と園の種類



保護者が子どもを園に通わせる理由

- 3 保育者と保護者の比較 < 保育所 >

保育者が考える主な「通園理由」は、保護者の回答とほぼ一致。

「集団生活を学ぶこと」と「仕事をしているので、日中子育てができないため」

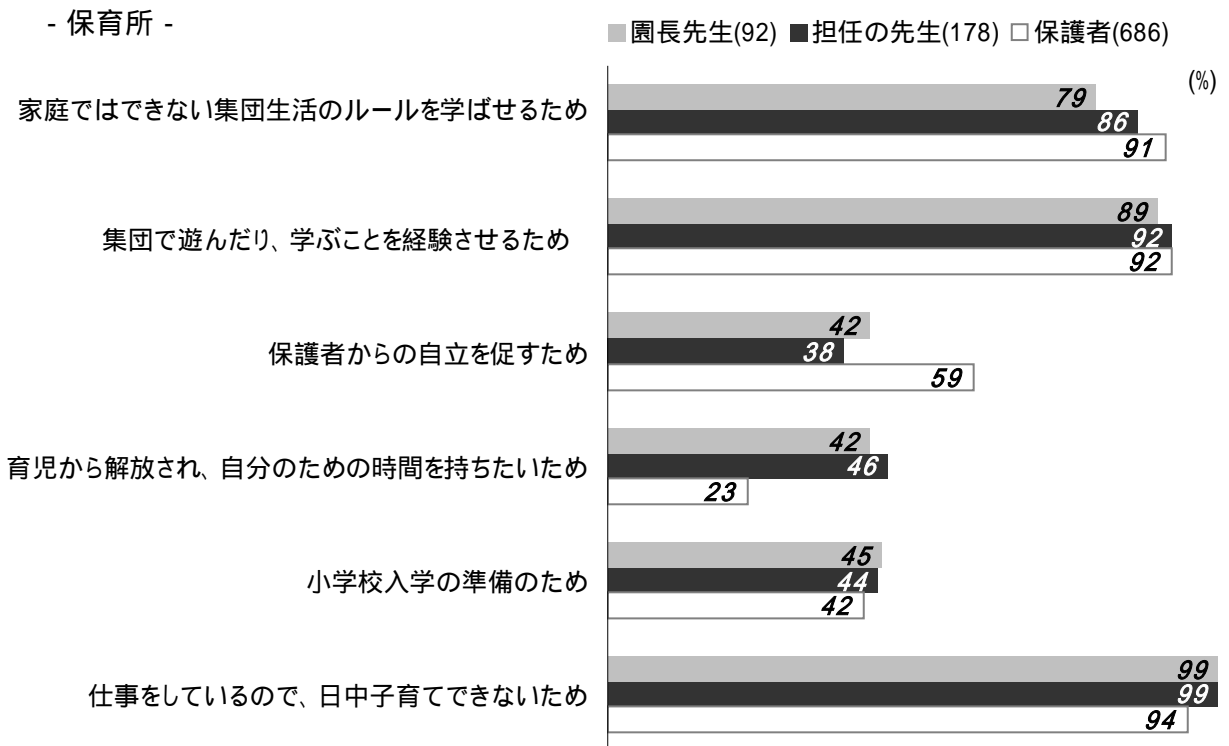
保育所の園長先生、担任の先生、保護者の三者で比較をしたところ、「家庭ではできない集団生活のルールを学ばせるため」、「集団で遊んだり、学ぶことを経験させるため」という「集団生活を学ぶ」というものと、「仕事をしているので、日中子育てができないため」が主な理由ということで、三者の認識は一致していました。また、園長先生と担任の先生の回答傾向もほぼ一致していました。(図 - 3 マーク参照)

保護者は、保育者の予想以上に「保護者からの自立」を理由に。

「保護者からの自立を促すため」という理由については、保護者の回答が保育者を大きく上回っていました。また、逆に「育児から開放され、自分の時間を持ちたい」という理由は、保育者が思っているほどには多くないことも分かりました。

(図 - 3 マーク参照)

図 - 3 三者の比較



. 保護者が子どもを園に通わせる理由

- 4 保育者と保護者の比較 < 幼稚園 >

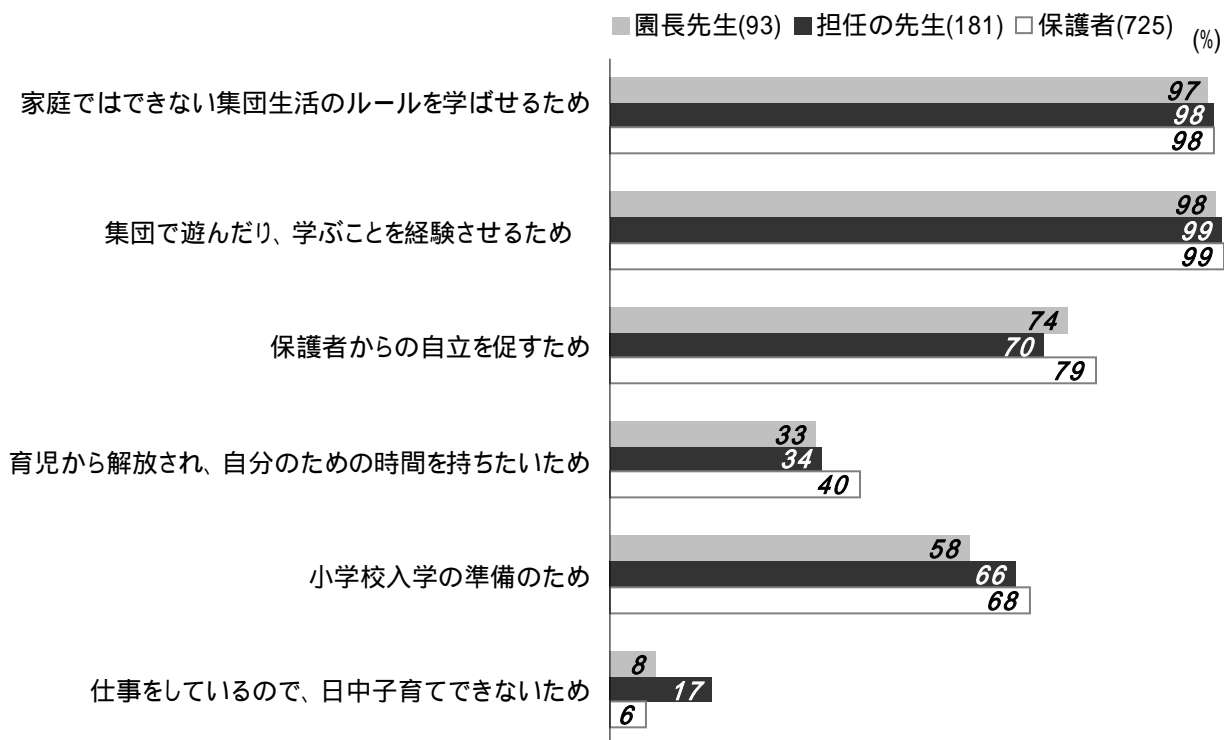
保育者が考える「通園理由」は、保護者の回答とほぼ一致。

幼稚園では、保護者の通園理由の幅が広いことが分かりましたが、園長先生、担任の先生、保護者と比較をしたところ、それぞれの理由についても、三者の認識はほぼ一致していました。

(図 - 4 参照)

図 - 4 三者の比較

- 幼稚園 -



保護者が園を選ぶ基準

- 1 幼稚園・保育所の＜共通点と相違点＞

保護者が園を選ぶ際の基準について、18項目に対してどの程度重視しているか、幼稚園と保育所で比較してみました。(次頁図 - 1参照)

園の保育内容を重視しているのは、幼稚園・保育所に共通。

「先生の人柄がよいこと」、「保育内容がよいこと」は、共通して非常に重視されています。(図 - 1 項目1, 2参照)

幼稚園では、「園の教育方針」も重視。

幼稚園の保護者は、上記の共通項目以外に、「教育方針に賛同する」という項目も、保育所に比べるとより重視しています。(図 - 1 項目4参照)

保育所では、提供されるサービスや利便性が大きな選択基準。

一方、保育所の保護者は「給食」、「通勤に便利」、「長時間預かってくれる」等、提供されるサービスをより重視していることがわかります。

また、「通園に便利」や「家からの距離が近いこと」なども、幼稚園に比べて、保育所の保護者のほうがより重視しています。(図 - 1 項目8, 13, 14参照)

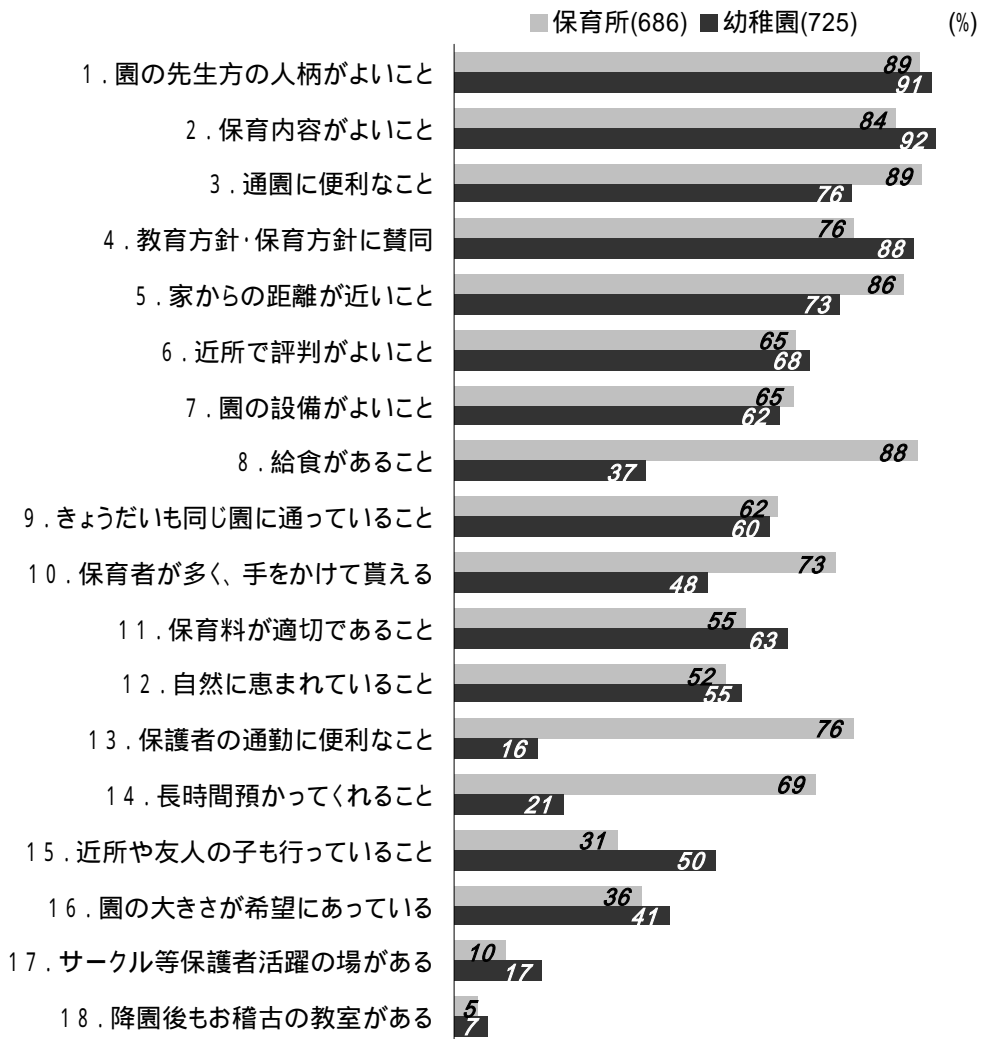
表 - 1 保護者の重視する項目 幼・保の上位5項目

(%は各項目を「とても重視している」、「やや重視している」のいずれかに回答した保護者の割合)

	保育所		幼稚園	
	サンプル数 = 686	(%)	サンプル数 = 725	(%)
1	園の先生方の人柄がよいこと	89	保育内容がよいこと	92
2	通園に便利なこと	89	園の先生方の人柄がよいこと	91
3	給食があること	88	教育方針・保育方針に賛同	88
4	家からの距離が近いこと	86	通園に便利なこと	76
5	保育内容がよいこと	84	家からの距離が近いこと	73

図 - 1は、保護者が園を選ぶ際の基準として18項目をあげ、それぞれに「とても重視している」、「やや重視している」のいずれかに回答した保護者の割合を幼稚園・保育所で比較したものです。

図 - 1 保護者の重視する項目 (項目順はサンプル全体の%の高い順)



保護者が園を選ぶ基準

- 2 園を選ぶ基準 - 4つの要因

前頁の園を選ぶ基準の18項目について、園長先生と担任の先生には、保護者がどの程度重視しているかを予測してもらいました。ここでは保護者の回答とあわせた三者の回答の様子から、園を選ぶ基準について、次のような4つの要因があることがわかりました。

18の項目には、その重視のされ方に幾つかのパターンが見られます。具体的には、「給食があること」を重視する人は、同時に「長時間預かってくれること」を重視する傾向がある、等です。

このような場合、2つの項目を重視する背景には、共通して園の選択の基準として「サービス内容」を重視するという考え方があると推測されます。

本報告書の中では、このように各項目間に共通する考え方を「要因」と呼ぶことにしました。

表 - 2 園を選ぶ基準 4つの要因

(要因の順は項目間の結びつきの強い順)

	具体的な重視項目
保育内容要因	園で行われている保育内容がよいこと
	園の教育方針・保育方針に賛同すること
	園の先生方の人柄がよいこと
	園の設備がよいこと
	近所での評判がよいこと
サービス内容要因	給食があること
	長時間預かってくれること
	保護者の通勤に便利なこと
	保育者の数が多くて、手をかけてもらえること
利便性要因	家からの距離が近いこと
	通園に便利なこと
保育外活動要因	子育て講演会や、保護者同士のサークルなど、保護者が活躍する場があること
	降園後も、いろいろなお稽古の教室があること

保護者が園を選ぶ基準

- 3 保育者と保護者の重視度はほぼ一致。

前頁の4つの要因について、園長先生、担任の先生、保護者の三者、また幼稚園・保育所別に、重視の度合いを比較してみました。全体的に三者の認識はほぼ一致していました。

図 - 3 園を選ぶ基準 4つの要因

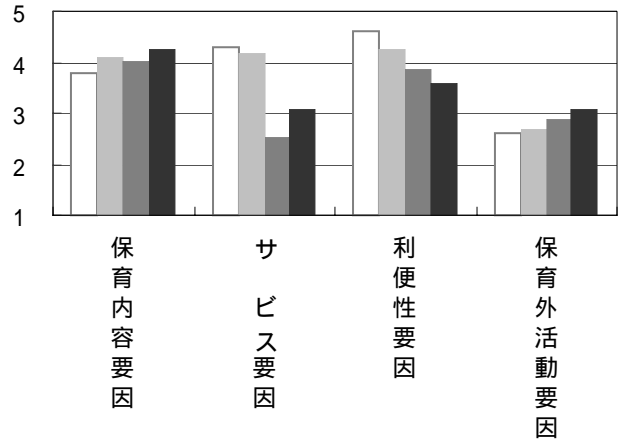
各要因の具体的な重視項目に対する5段階評価を1点～5点に点数化し4つの要因の平均点を比較した図

1 . 保育内容要因

保育者と保護者の認識はほぼ一致しています。園の種類を問わず非常に重視されています。幼稚園、保育所とも公立よりも私立で、より重視される傾向があります。

園長先生

□ 公立保育所 ■ 私立保育所 ■ 公立幼稚園 ■ 私立幼稚園

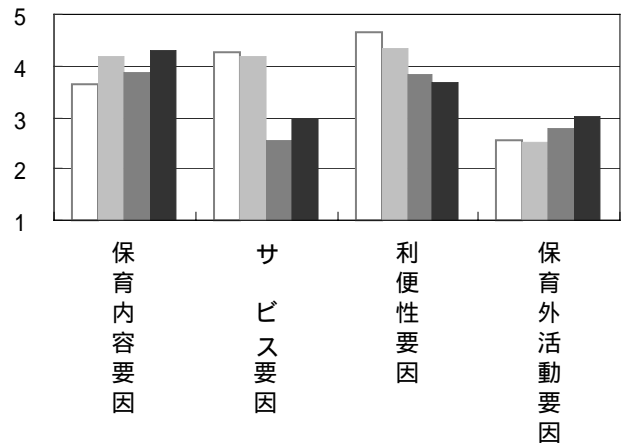


2 . サービス内容要因

幼稚園・保育所の違いが大きい要因です。保育所を利用する保護者は幼稚園に比べてとても重視しています。さらに、公立保育所の保育者は保護者以上に重視していることがわかります。

担任の先生

□ 公立保育所 ■ 私立保育所 ■ 公立幼稚園 ■ 私立幼稚園

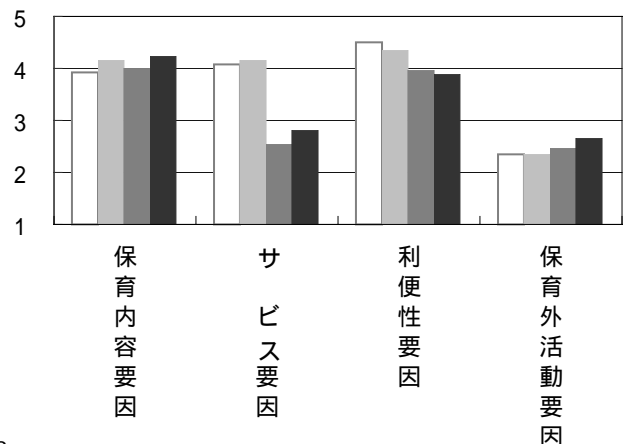


3 . 利便性要因

幼稚園よりも保育所で重視されています。また幼稚園、保育所とも私立よりも公立でより重視される傾向があります。

保護者

□ 公立保育所 ■ 私立保育所 ■ 公立幼稚園 ■ 私立幼稚園



4 . 保育外活動要因

4つの要因の中では最も重視されておらず、特に保護者でその傾向があります。保育所より幼稚園においてより重視されています。

・保護者の保育に対する「期待」と「満足」

- 1 保護者の保育に対する「期待」 < 幼稚園と保育所の比較 >

保護者が共通して期待が大きいのは、次の3項目

- ・「元気に遊んで丈夫な身体をつくること」
- ・「友達と一緒に仲良くすること」
- ・「戸外でのびのびと遊ぶこと」

次頁図 - 1より、幼稚園と保育所の保護者が共通して保育に期待する上位3項目は、上のような内容であることがわかりました。このことから、園に対する保護者の共通の期待は、「元気に、仲良く、戸外で、遊ぶ」ということになるようです。(図 - 1 項目1, 2, 3参照)

「多様な人との関わり」を期待する、保育所の保護者。

「異年齢の子どもと一緒に遊ぶ」(項目16)や、「地域の人々と関わったり親しみを持つこと」(項目22)では保育所と幼稚園の保護者に差が見られました。保育所の保護者は、幼稚園に比べて多様な人間関係の体験を、より期待しているようです。

全体的に、幼稚園より保育所の保護者のほうが期待が大きい。

わずかずつではありますが、ほとんどの保育内容において、保育所の保護者のほうが幼稚園の保護者より期待が大きくなっています。

図 - 1 園の保育に対する保護者の期待
(項目順はサンプル全体の期待度順)

「(以下の保育内容に対して)とても期待している」



保護者の保育に対する「期待」と「満足」

- 2 保護者の「期待」と「満足」の比較 < 保育所 >

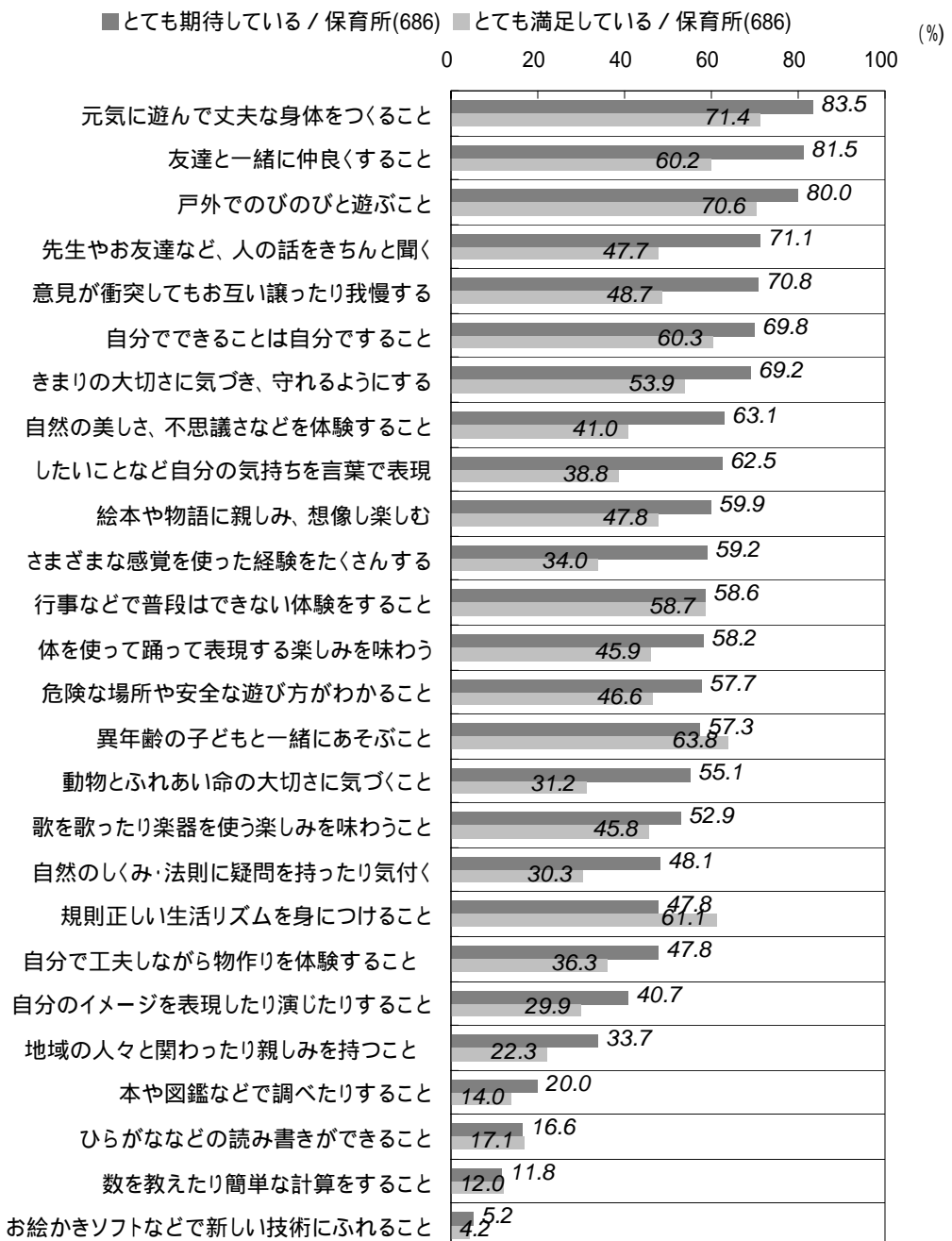
「さまざまな感覚を使った経験」「動物とのふれあい」などに、期待と満足の差。

保育所の保護者の期待と満足の間に一番差が見られた項目は、「さまざまな感覚を使った経験をたくさんする」で、その次に「動物とふれあい命の大切さに気付くこと」となっています。これらは、保育所の保護者がよりいっそうの実践を望んでいる内容と言えます。（図 - 2 マーク参照）

「規則正しい生活リズム」は期待以上に、満足。

一方、「規則正しい生活リズムを身につけること」に関しては、期待以上に満足しています。（図 - 2 マーク参照）

図 - 2 園の保育に対する保護者の「期待と満足」 - 保育所 - （項目順は期待度順）



保護者の保育に対する「期待」と「満足」

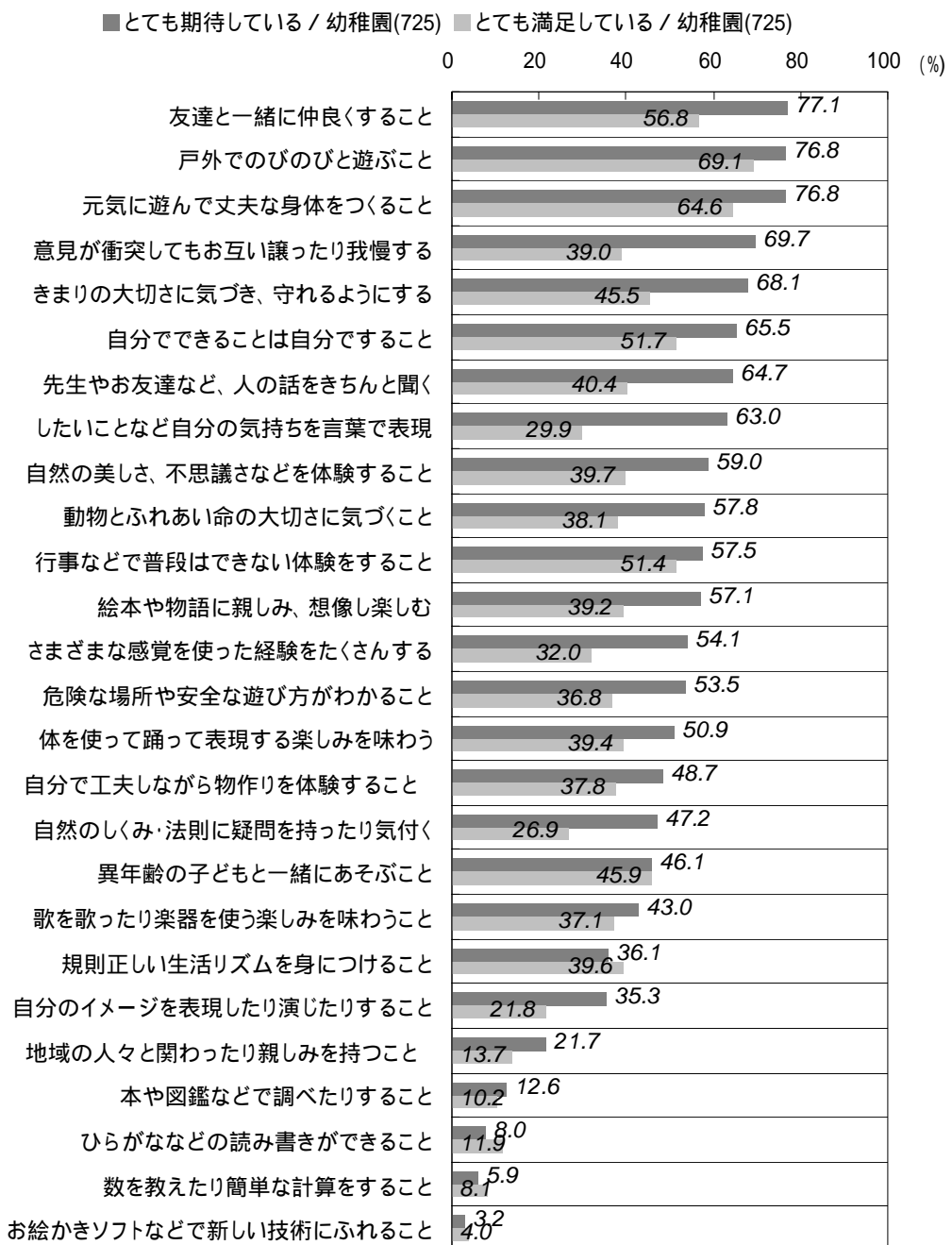
- 3 保護者の「期待」と「満足」の比較 < 幼稚園 >

「お互い譲ったり我慢する」や、「自分の気持ちを表現」などに大きな差。

幼稚園の保護者では、「意見が衝突してもお互いに譲ったり我慢する」や「したいことなど自分の気持ちを言葉で表現」などに期待と満足の大きな差が見られました。幼稚園の保護者は、これら人との関わりに関する項目について、いっそうの実践を望んでいるようです。

(図 - 3 マーク参照)

図 - 3 園の保育に対する保護者の「期待と満足」 - 幼稚園 - (項目順は期待度順)



・ 保育内容に関する保護者と保育者の認識の比較

前頁までで保護者の保育内容に関する「期待」と「満足」の様子をみてきました。

それぞれの保育内容について、保育者には保護者の期待を予測してもらい、またその予測に対してどの程度実践できていると思うか、を答えてもらいました。

- 1 保護者と保育者で認識に差がある保育内容 < 保育所 >

図 - 1は、保育所の保護者が「期待ほど満足していない」のに、保育者側は「十分に実践できている」と判断している、といった保護者と保育者の認識に差のみられた項目を取り上げたものです。

「自然の不思議さなどの体験」や「自然のしくみなどに疑問を持つ」などに認識の差。

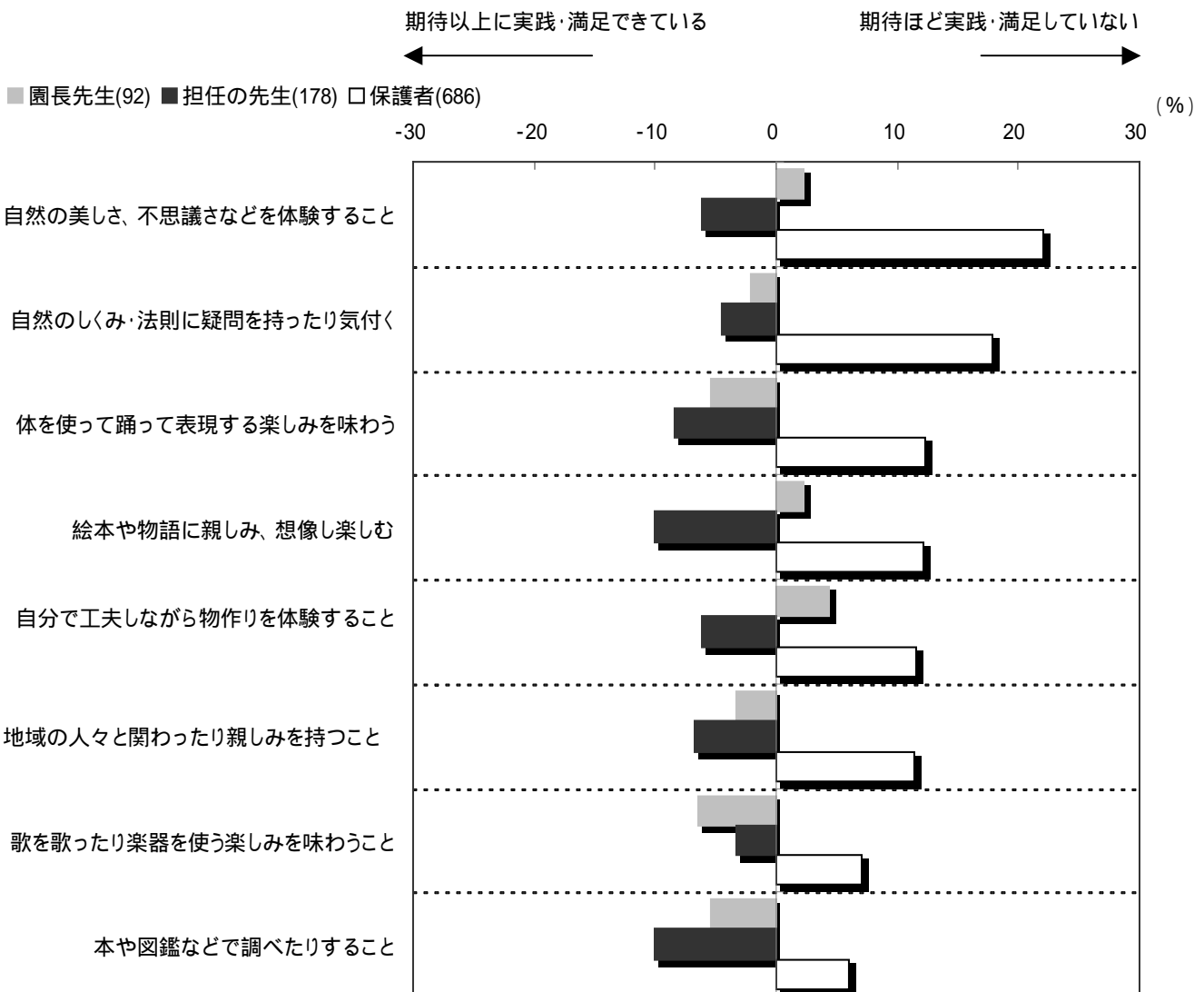
保育所では、「自然の美しさ・不思議さの体験」や「自然のしくみ・法則に疑問を持つ」などは、保護者の満足が小さいにも関わらず、保育者は実践に満足している、というように認識に差がありました。

担任の先生のほうが、「期待以上に実践できている」と認識。

また、ほとんどの項目において、園長先生よりも、担任の先生のほうが「実践できている」と認識していることが分かりました。

図 - 1 保護者の期待に満足が達していない保育内容と保育者の実践度 - 保育所 -

「とても期待している (%)」 - 「とても実践・満足している (%)」



保育内容に関する保護者と保育者の認識の比較

- 2 保護者と保育者で認識に差がある保育内容 < 幼稚園 >

図 - 2は、幼稚園の保護者が期待ほど満足していないのに、保育者側は「十分に実践できている」と判断している、といった保護者と保育者の認識に差のみられた項目を取り上げたものです。

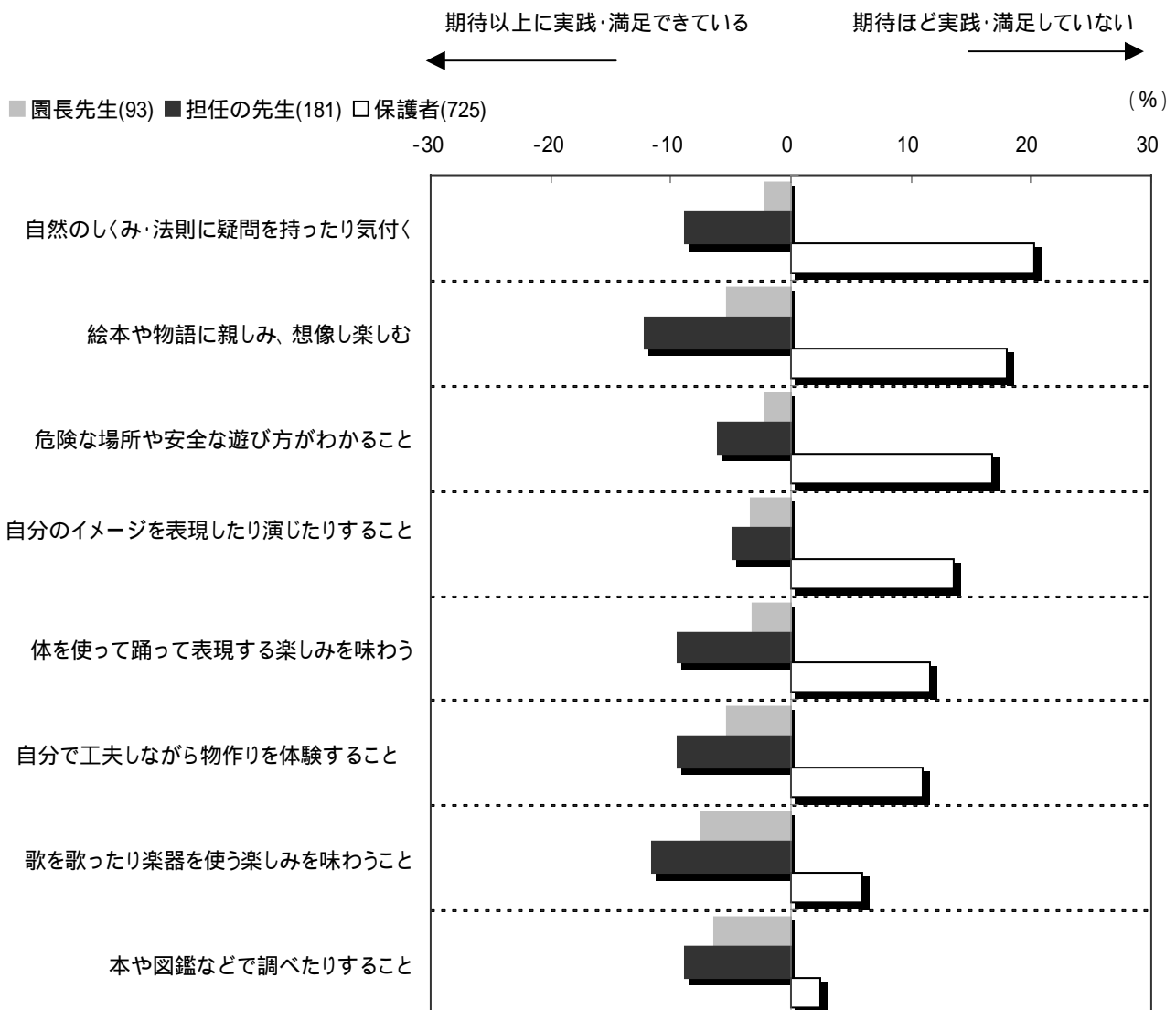
「自然のしくみ・法則に疑問を持ったり気付く」「絵本や物語に親しみ、想像し楽しむ」などに認識の差。

幼稚園では、「自然のしくみ・法則に疑問を持ったり気付く」や「絵本や物語に親しみ、想像し楽しむ」などは保護者の満足が小さいにもかかわらず、保育者は実践に満足している、という認識の差がみられました。

園長先生と担任の先生の認識は、保育所に比べると一致傾向

幼稚園においても、担任の先生のほうが園長先生に比べて「期待以上に実践している」という認識を持っていますが、保育所に比べると園長先生の認識と近いようです。

図 - 2 保護者の期待に満足が達していない保育内容と保育者の実践度 - 幼稚園 -
「とても期待している(%)」 - 「とても実践・満足している(%)」



保護者の園の保育に対する期待の要因

- 1 園の保育に対する期待 5つの要因

以下の保育内容26項目の期待度についての回答の結果から、園の保育に対する期待には次の5つの要因があることが明らかになりました。

表 - 1 園の保育に対する期待 5つの要因

(要因の順は項目間の結びつきの強い順)

	具体的な期待項目
社会性保育期待	きまりの大切さに気づき、守れるようにすること
	けんかをしたり、意見が衝突してもお互いにゆずったり我慢したりすること
	先生やお友達など、人の話をきちんと聞くこと
	「したいこと」「してほしいこと」など自分の気持ちを言葉で表現すること
	自分でできることは自分ですること
	友達と一緒に仲良くすること
自然・科学体験保育期待	ものや自然のしくみや法則に疑問を持ったり、気付くこと
	動物とふれあい、いたわったり大切にしたりして命の大切さに気づくこと
	自然とふれあい、その美しさ、不思議さなどを体験すること
感性表現保育期待	自分の体を使って踊ったりして表現する楽しみを味わうこと
	音楽に親しみ、歌を歌ったり楽器を使ったりする楽しみを味わうこと
	自分のイメージを、動きや言葉などで表現したり、演じたりすること
	自分で工夫しながら物作りを体験すること
学習準備期待	数を教えたり簡単な計算をすること
	ひらがななどの読み書きができること
	お絵かきなどの活動にパソコンの「お絵かきソフト」など新しい技術にふれること
健康保育期待	戸外でのびのびと遊ぶこと
	元気に遊んで丈夫な身体をつくること

保護者の園の保育に対する期待の要因

2 5つの要因それぞれの期待度

前頁の5つの要因が、それぞれどの程度期待されているかを、園長先生と保護者、幼稚園・保育所別に比較してみました。

1. 社会性保育期待

園長先生の予想よりも保護者の期待が大きい要因です。

2. 自然・科学体験保育期待

園長先生と保護者の認識の差が最も大きい要因で、保護者は園長先生の予想以上に期待しているようです。特に保育所において、その差が大きく見られます。

3. 感性表現保育期待

2.と関係の強い要因です。園長先生の予想よりも保護者の期待が大きく、公立よりも私立の保護者の期待が大きいようです。

4. 学習準備期待

5つの要因の中で最も期待が小さい要因ですが、幼稚園よりも保育所、公立より私立で期待が大きいようです。

5. 健康保育期待

5つの中で最も期待の大きい要因です。園長先生の予想以上に保護者は期待しています。私立幼稚園の園長先生は、他の園に比べて保護者の期待が小さいと考えているようです。

「子どもの年齢と保育内容への期待」

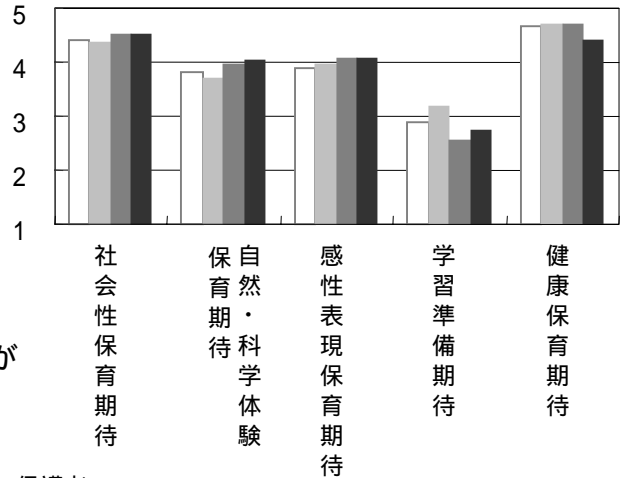
保育内容への期待について、第1子の保護者と第2子以降の保護者を比較すると、第1子の保護者のほうが、わずかではありますが、全体的に期待が大きい傾向がありました。(右の図、参照)

図 - 2 5つの要因の期待度

各要因に分類された項目に対する5段階評価を1点～5点に点数化し5つの要因の平均点を比較した図

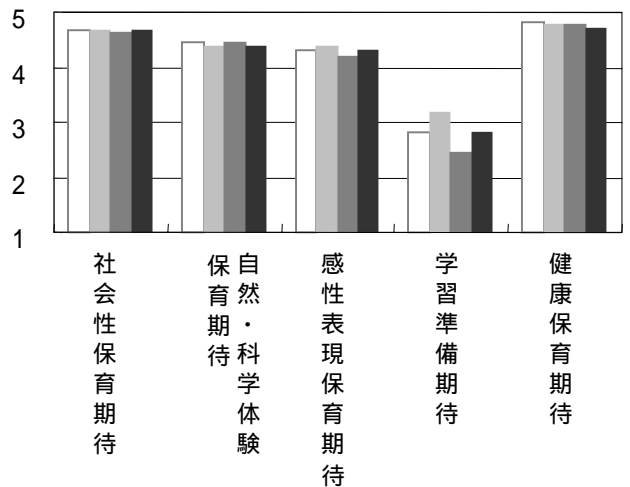
園長先生

□ 公立保育所 ■ 私立保育所 ■ 公立幼稚園 ■ 私立幼稚園



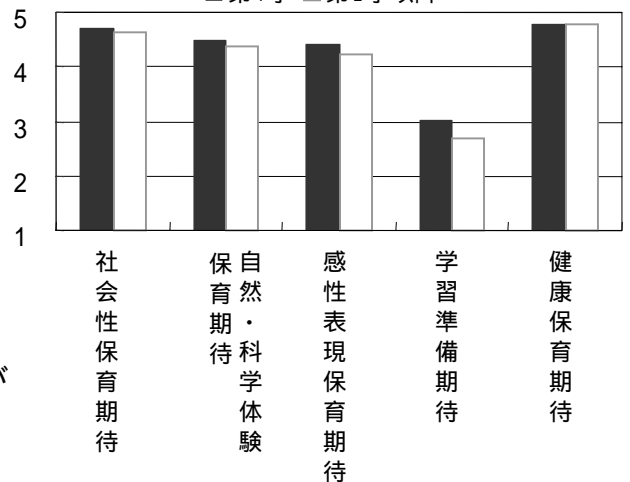
保護者

□ 公立保育所 ■ 私立保育所 ■ 公立幼稚園 ■ 私立幼稚園



保護者 子どもの出生位置

■ 第1子 □ 第2子以降



園の保育に対する評価（満足度・実践度）の要因

- 1 園の保育に対する評価（満足度・実践度） 5つの要因

以下の保育内容26項目の評価(保護者は満足度、保育者は実践度)についての回答の結果から、園の保育に対する評価には期待と同様に次の5つの要因があることが明らかになりました。

表 - 1 園の保育に対する評価 5つの要因

(要因の順は項目間の結びつきの強い順)

	具体的な評価項目
社会性保育評価	きまりの大切さに気づき、守れるようにすること
	けんかをしたり、意見が衝突してもお互いにゆずったり我慢したりすること
	友達と一緒に仲良くすること
	自分でできることは自分ですること
	先生やお友達など、人の話をきちんと聞くこと
	危険な場所や安全な遊び方がわかること
感性表現保育評価	自分の体を使って踊ったりして表現する楽しみを味わうこと
	音楽に親しみ、歌を歌ったり楽器を使ったりする楽しみを味わうこと
	自分のイメージを、動きや言葉などで表現したり、演じたりすること
	自分で工夫しながら物作りを体験すること
	絵本や物語に親しみ、想像する楽しみを味わうこと
自然・科学体験保育評価	ものや自然のしくみや法則に疑問を持ったり、気付くこと
	自然とふれあい、その美しさ、不思議さなどを体験すること
	動物とふれあい、いたわったり大切にしたりして命の大切さに気づくこと
学習準備評価	数を教えたり簡単な計算をすること
	ひらがななどの読み書きができること
	お絵かきなどの活動にパソコンの「お絵かきソフト」など新しい技術にふれること
健康保育評価	元気に遊んで丈夫な身体をつくること
	戸外でのびのびと遊ぶこと

園の保育に対する評価（満足度・実践度）の要因

- 2 5つの要因 それぞれの評価

前頁の5つの要因は、それぞれの程度満足あるいは実践されているかを、園長先生、担任の先生、保護者の三者と、幼稚園・保育所別に比較してみました。

1. 社会性保育評価

保育者の実践度評価より、保護者の満足度評価のほうが高いようです。公立よりも私立の幼稚園・保育所で評価が高い傾向があります。

2. 感性表現保育評価

保育所よりも幼稚園の保育者の実践度評価が高く、保護者の満足度評価は公立よりも私立の幼稚園・保育所で高くなっています。

3. 自然・科学体験保育評価

園長先生の実践度評価は保育所よりも幼稚園で高く、担任の先生の実践度評価は公立の園で高い傾向があります。

4. 学習準備評価

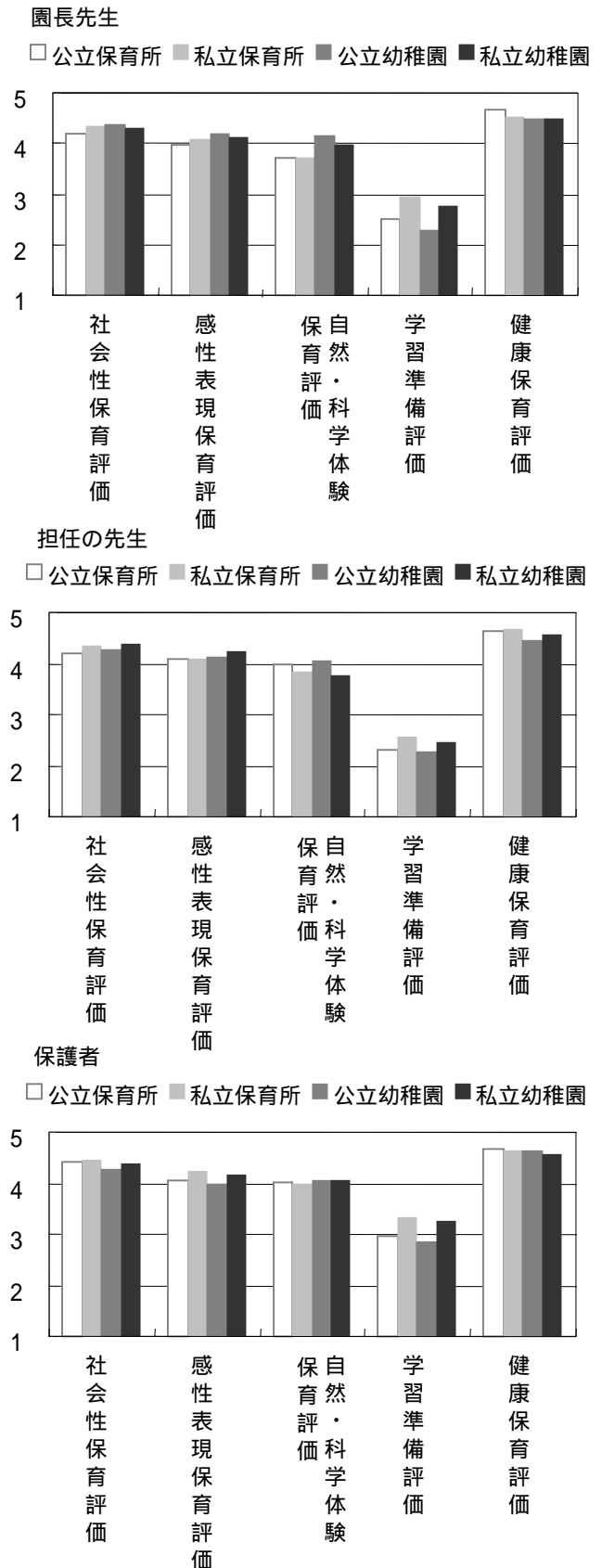
5つの中では最も評価の低い要因です。また公立・私立の違いが大きい要因です。私立の方が満足度・実践度とも評価が高い傾向があります。

5. 健康保育評価

5つの中では満足度・実践度とも最も評価が高い要因です。保護者では園の種類による差はあまりなく、保育者側では幼稚園よりも保育所で実践度が高い傾向があります。

図 - 2 5つの要因の評価(満足度・実践度)

各要因に分類された項目に対する5段階評価を1点～5点に点数化し5つの要因の平均点を比較した図



．保育・教育についての意識

- 1 全体の傾向と三者の比較

保育・教育についてのいろいろな考え方について、それぞれどの程度、自分の考えにあてはまるか、について聞きました。次頁図 - 1はそれぞれの考え方について、「とてもそう思う」、「ややそう思う」いずれかに回答した人の割合を三者で比較したものです。

保護者と保育者で共通して高い3つの意識は、次の3つ。

- ・「幼稚園や保育所では興味や関心を育むべき」（図 - 1 項目2参照）
- ・「様々な体験をさせ、特定の内容に偏らないほうがよい」（同、項目6参照）
- ・「保護者は子どものしつけに責任をもつべき」（同、項目18参照）

表 - 1 保育・教育についての意識 - 3者に共通して高い意識

「とてもそう思う」、「ややそう思う」の回答の割合(%)

	園長先生(185)	担任先生(359)	保護者(1411)
幼稚園・保育所などでは興味や関心を育むべき	95	92	91
様々な体験をさせ、特定の内容に偏らないほうがよい	91	88	88
保護者は子どものしつけに責任を持つべき	91	94	96

さまざまな保育に関する意識のうち、保護者、園長先生、担任の先生に共通して高かった意識は、上記の3つでした。

このことから、幼稚園や保育所の保護者や保育者の間では、「特定の内容に偏らない、さまざまな体験をさせ」、「子ども達の興味や関心を育むことが大切」と考えられていることが分かります。また、しつけに関しても、「園に任せるのではなく、保護者が責任を持つべき」という考え方であることが分かります。

保護者の意識で最も高い「保護者は子どものしつけに責任をもつべき」

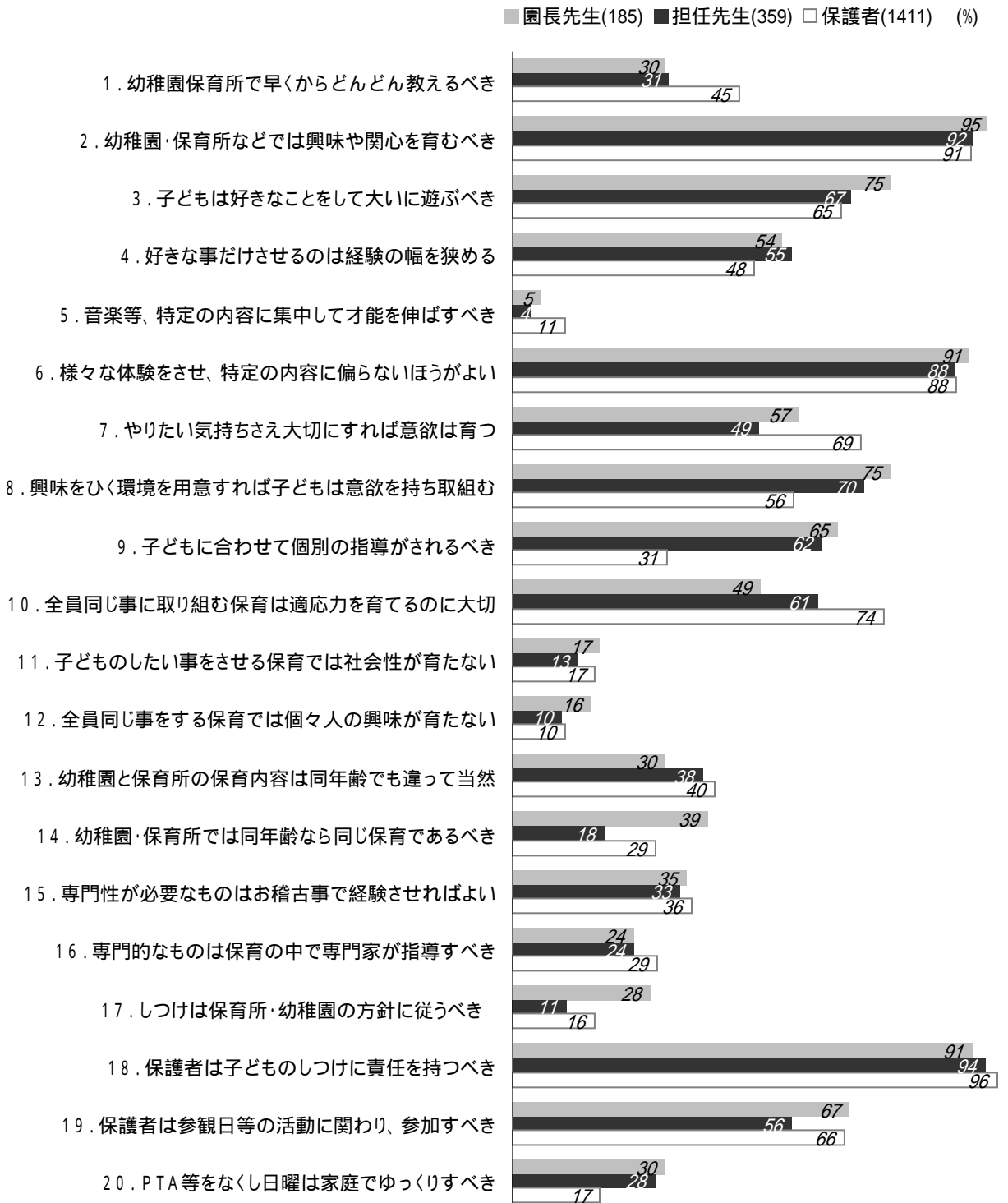
特に、「保護者は子どものしつけに責任をもつべきである」は、保護者では全体の中で一番高い意識で、園長先生や担任の先生と比べても高い値になっています。

(図 - 1、項目18参照)

保護者と園長先生に差があるのは、「個別指導」や「同じことに取り組む」という保育に関する意識。

保護者と園長先生の意識を比べてみると、保護者は「子どもに合わせて個別の指導をすべき」ということをあまり重視しておらず、逆に「全員同じことに取り組む保育は、子どもの適応力を育むために大切」と考えていることが分かります。一方園長先生は、「全員で同じことに取り組む保育」より、「子どもに合わせて個別に指導」を行うほうが大切であると考えています。(図 - 1、項目9,10参照)

図 - 1 保育・教育についての意識(項目順は質問票の順)



. 保育・教育についての意識

- 2 保育・教育に対する考え方 3つの意識

以下の保育・教育に対する考え方についての回答結果から、それらの考え方の背景には次の3つの意識があることが明らかになりました。

表 - 2 保育・教育に対する考え方 3つの意識

(要因の順は項目間の結びつきの強い順)

	具体的な考え方
可能性重視	子ども達は何でも吸収する素晴らしい能力を持っているので、幼稚園、保育所でも早いうちからいろいろなことをどんどん教えるべきだ。
	幼児期は音楽とか、スポーツとか、特定の内容に集中して才能を伸ばすことが大切だ。
	美術、音楽、スポーツなど、専門性が必要とされるものは、保育の中でも専門家が指導すべきだ。
大人による指導	子どもが好きなことのみをさせるのは、子どもの経験の幅を狭めることになる。
	子ども自身がやりたいことに自由に取り組む保育では、子どもの社会性が育たない。
	全員が同時に同じ事に取り組む保育は集団生活への適応力を育てるために大切だ。
意欲・自主性尊重	幼稚園や保育所では、子どもは好きなことをして大いに遊ぶべきだ。
	幼稚園や保育所では、知識を教えることより、物事に対する子ども達の興味や関心を育むことが大切だ。
	子どものやりたい気もちさえ大切にしていれば、意欲はおのずと育つものだ。

. 保育・教育についての意識

- 3 3つの意識 それぞれの強さ

前頁の3つの意識の強さを、園長先生、担任の先生、保護者の三者と、幼稚園・保育所別に比較してみました。

1. 可能性重視

3つの中では一番低い意識です。公立より私立の保育者で強く、また特に公立の園では、保育者より保護者のほうが意識が強いようです。

2. 大人による指導

1.の可能性重視と関係が強い意識です。公立よりも私立で強く、また保育者よりも保護者の意識のほうが強いようです。

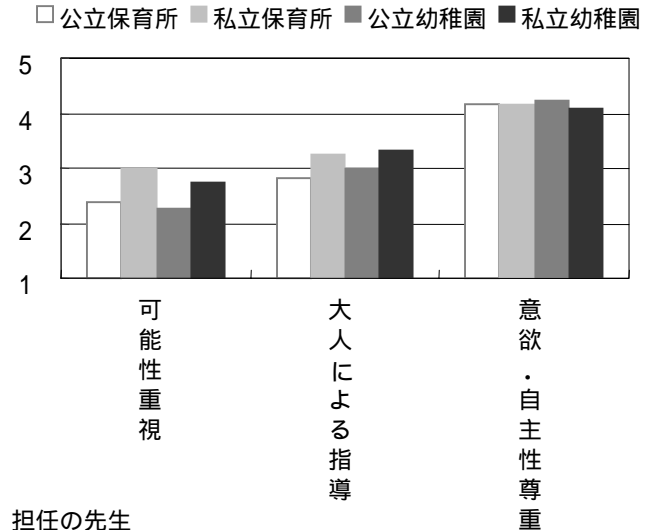
3. 意欲・自主性尊重

3つの中では全体的に最も強い意識です。私立よりも公立のほうが意識が強い傾向があります。

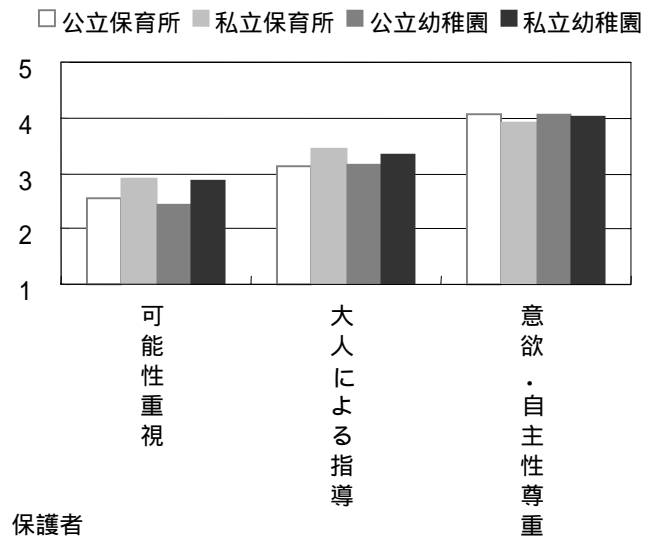
図 - 3 3つの意識の強さ

それぞれの具体的な意識項目に対する5段階評価を1点～5点に点数化し3つの意識の平均点を比較した図

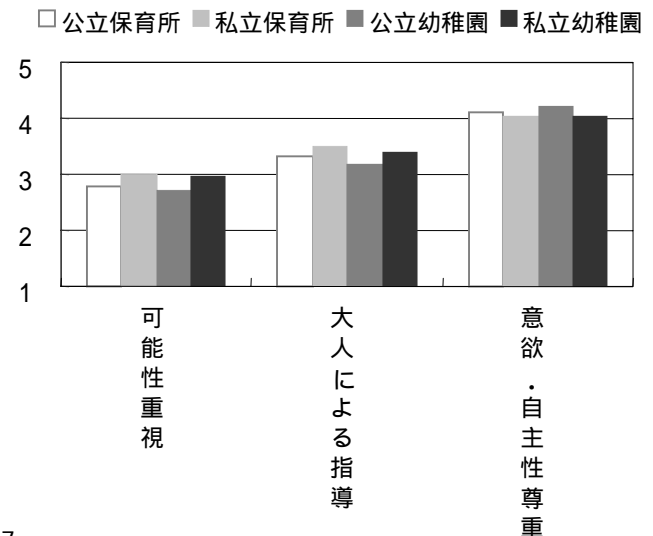
園長先生



担任の先生



保護者



．「科学する心を育てる」－ことばのイメージ

- 1 「科学する心を育てる」- ことばのイメージと、出現頻度

「科学する心を育てる」ということばのイメージを園長先生、担任の先生、保護者にそれぞれ自由記述方式でたずねました。

次頁の図 - 1は、単語や表現の出現パターン、意味によって分類した主なイメージの出現頻度をグラフにし、三者で比較したものです。

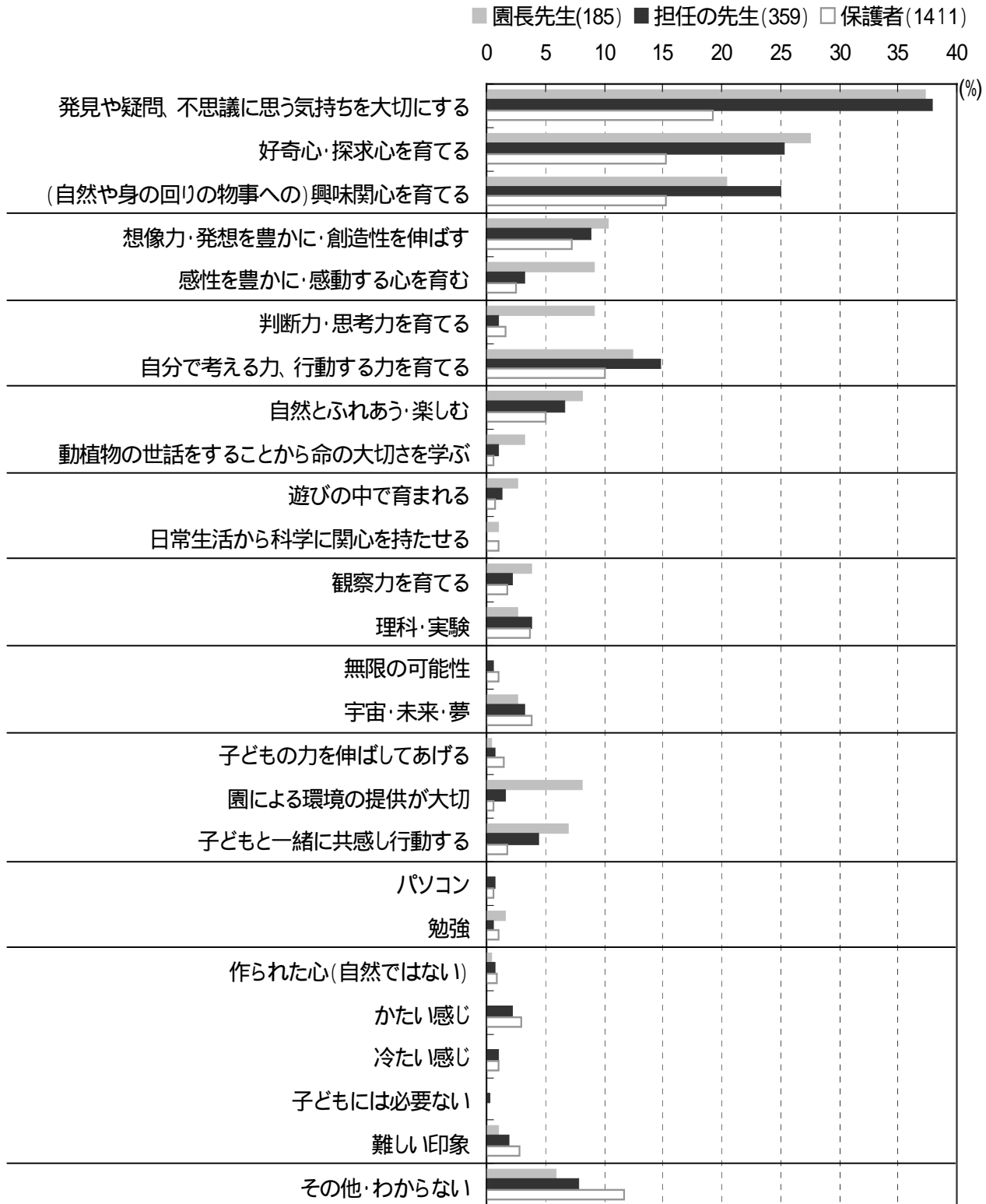
「科学する心を育てる」とは、「不思議に思う気持ちを大切に」したり「子どもたちの好奇心や興味関心を育む」こと。

「科学する心を育てる」ということばに対して、主に保育者は、「子どもたちの発見や疑問、不思議に思う気持ちを大切にする」とか、「子どもたちの好奇心や探究心を育む」、また「自然や身の回りのものごとへの興味や関心を育てる」といったイメージを多く持っていることが、図 - 1からわかりました。

保護者では、「科学する心を育てる」ということばに、否定的な印象や、抵抗をあらわす意見も。

保護者も、「科学する心を育む」ということばに対して、保育者と同様に上記のようなイメージを多く持っているものの、保育者に比べると少なく、一方では、「わからない」や「かたい」「難しい」といった記述が、保育者より多く見られました。(次頁図 - 1 マーク参照)

図 - 1 「科学する心を育てる」記述内容別 出現頻度



「科学する心を育てる」－ことばのイメージ

- 2 「科学する心を育てる」 - ことばのイメージの種類とその内容

「科学する心を育てる」ということばのイメージを園長先生、担任の先生、保護者にそれぞれ自由記述方式でたずねました。以下は、単語や表現の出現パターン、意味によって分類した主なイメージの種類と、それらの代表的な記述内容です。

図 - 2 「科学する心を育てる」主なイメージと代表的な記述

主なイメージの種類	代表的な記述
好奇心	発見や疑問、不思議に思う気持ちを大切にする
	好奇心・探求心を育てる(図鑑などで調べてみること等を含む)
	(自然や身の回りの物事への)興味関心を育てる
創造性	想像力・発想を豊かに・創造性を伸ばす
	感性を豊かに・感動する心を育む
自分で考え行動する力	判断力・思考力を育てる
	自分で考える力、行動する力を育てる
自然とのふれあい	自然とふれあう・楽しむ
	動物や植物の世話をすることから命の大切さを学ぶ
日常	遊びの中で育まれる
	日常生活から科学に関心を持たせる
観察	観察力を育てる
	理科・実験
夢・可能性	無限の可能性
	宇宙・未来・夢
大人の役割	子どもの力を伸ばしてあげる。大人による手助けが大切。
	園による環境の提供が大切
	(保育者・保護者も)子どもと一緒に共感し行動する。
弱い否定	パソコン
	勉強
否定・抵抗感	作られた心(自然ではない)
	かたい感じ
	冷たい感じ
	子どもには必要ない
	難しい印象

ソニー教育財団は、幼稚園・保育所、そして、公立・私立という枠を越えた保育(教育)の支援をしたいと考え、2002年度から「ソニー幼児教育支援プログラム」を新しくスタートいたしました。このプログラムは、主題を「科学する心を育てる」とし、「3歳～5歳児の子どもたちが、人や自然との様々なかかわりを通して、豊かな感性を育み、創造性を伸ばす教育(保育)」に、新しい発想で、情熱を持って取り組んでいる保育の実践と計画を募集し、すぐれた実践を行っている園と保育者を支援するものです。

今回の調査で、全国のたくさんの幼稚園・保育所の保護者の皆さんや園長先生をはじめとする保育者の方々のご協力を得て、保育の現状に関するさまざまな貴重なデータを得ることができました。幼稚園・保育所の保護者は、どのようなことを園に期待し、どの程度満足しているのか。また保育者は、保護者の期待をどのように受け止め、どのように実践しているかなども分かりました。また、幼稚園と保育所の違いや、保護者と保育者の間にある意識の違いなども垣間見ることができました。

また、私たちが主題とする「科学する心を育む」ということばのイメージについても、特に園長先生を始め、保育者の方々には充分にご理解いただけているという結果を得て、方向性が間違っていなかったことを確信することができました。同時に保護者にはまだ充分に伝わっていないことも分かり、今後の課題も見えてきました。

私たちは、この調査の結果を参考にさせていただき、更に「幼児教育支援プログラム」の内容を充実させていきたいと考えています。そして、3歳～5歳児の子どもたちが心豊かに、健やかに成長していけるよう、園長先生や保育者の実践を支援していきたいと考えています。

公立・私立、幼稚園・保育所の
園長先生・担任の先生・保護者を対象とした
「保育に関する意識調査」
- 報告書 -

監修協力：秋田喜代美、中澤潤
発行：(財団法人)ソニー教育財団
発行日：平成15年3月10日

お問合せ先
財団法人 ソニー教育財団
Sony Foundation for Education

〒140 - 0001
東京都品川区北品川4 - 2 - 1 御殿山アネックス2号館
：03-3442-1005 Fax:03-3442-1035
ホームページ <http://www.sony-ef.or.jp>